

燃料油置きタンクの油面計から、燃料油の漏えいによる火災事故が発生しています！

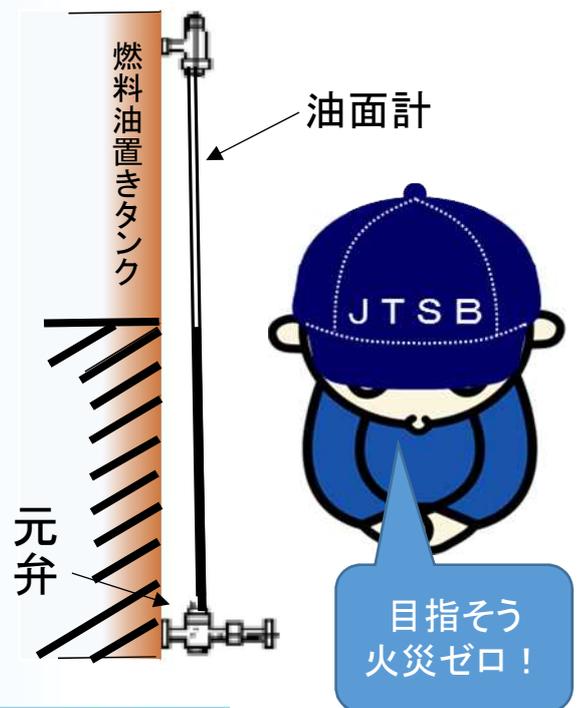
平成26年8月、岩手県大槌湾東方沖のさんま漁船で機関室火災が発生し、乗組員2人が死亡する等の火災事故が発生しました。

容量1kl以下の燃料油置きタンクの油面計には、破損しやすいガラス管等が多く使われています。

- 油面計は、破損すると燃料が飛び散って火災の原因になります。計測時以外は必ず元弁を閉鎖しましょう！

また、

- ・ ガラス等の材質の油面計は、破損しても、排気管等の高温部に燃料油がかからないところに取り付けましょう！
- ・ 開口部、通風筒の閉鎖及び消火設備の取扱い訓練を定期的に行いましょう！
- ・ 早期に火災発生を探知するために火災探知装置を設置しましょう！



火災探知装置(熱式)

特に、機関室が無人になる漁船については、これらの対策が被害の軽減に役立つので、実施を検討しましょう！